

令和4年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期  
中間レポート（1）

高橋 愛里

## 1. OSGSP (Ohio Saitama Global Speaker Program) の概要

埼玉県が、姉妹州である米国オハイオ州との姉妹提携 30 周年を記念して、開始したオンラインプログラムです。令和 3 年度から半年単位で行っているため私たちは 3 期生になります。オハイオ州のフィンドレー大学とリアルタイムで結び第 3 期は“*More than words*”～言葉を越えたコミュニケーションを求めて～をテーマとし、講義や現地大学生とのディスカッションなどを通してテーマについて学んでいます。

## 2. 自己紹介

本プログラムの参加を検討されている方へ、簡単に自己紹介させていただきます。私は埼玉県在住の社会人です。仕事で英語を使う機会もあり、日々英語の勉強をしています。しかし、日本にいながらの英語学習ではディスカッションやプレゼンテーションの機会が少なく、それらのスキルが不足していることが課題の一つでした。

## 3. プログラム応募の動機

私が本プログラムに応募した理由は“*More than Words*”というテーマに興味があったからです。業務で海外のお客様の対応をするときにジェスチャーや絵を描くことなど言語以外のコミュニケーションをとっています。その際、言葉を越えたコミュニケーションの重要性を感じ、学んでみたいと思いました。

## 4. 感想

2 か月間本プログラムに参加して感じた魅力は 2 点あります。

まず 1 点目は幅広い人と交流できることです。埼玉県からの参加者、現地大学生のパートナー、フィンドレー大学の学生など様々な人と交流しました。特に印象に残っているのは埼玉県からの参加者の英語力の高さです。今回の参加者は、中学生 2 名、大学生 2 名、社会人である私の 5 名です。他の参加者の英語を聞きながら自分も刺激をもらい勉強に励んでいます。また、ディスカッションでは学生ならではの視点を聞くことができ、視野が広がりました。

また、フィンドレー大学の学生でバングラデシュ出身の方と今期の講義テーマについて話す機会もありました。バングラデシュの文化や価値観について全く知らなかったので興味深かったです。

2点目は、講義で学んだことを実践できる場があることです。講義では主にコミュニケーションの方法について学びました。相手の話のターンが終わってから、話し始めることを学んだ後、このことをパートナーと実際に実践しました。今までは相手の話で分からないことがあるとすぐ尋ねてしまっていたのですが、一度相手の話を聞き終えてから尋ねるようにしました。実践してみると、パートナーもその方が話しやすそうで、私自身も話の大筋をとらえやすくなりました。このように講義で学んで終わりではなく、パートナーとすぐ実践できるのが本プログラムの魅力だと思いました。

本プログラムでは講義だけではなく、埼玉県親善大使としての活動もあります。まだ活動はできていませんが、来月埼玉県からの他の参加者と藍染体験に行く予定です。今後は、埼玉県からの他の参加者や歴代の参加者、また現地大学生のパートナーと相談して、親善大使の活動に積極的に取り組んでいきたいです。

#### フィンドレー大学の学生とのディスカッション



#### 埼玉県親善大使委嘱式

